



和歌山県海南市立黒江小学校 校長 木下 昌久

## 1 はじめに

本校は、和歌山県海南市の西部に位置し、東に熊野街道、南は海南港に面した海沿いに立地しています。古くから、紀州漆器（黒江塗り）が盛んな街として有名で、地域の方々は非常に協力的です。校舎と運動場は、塩田跡や干潟を埋め立てた場所に建てられていて、津波浸水域域であることから、津波に対する防災意識が高い地域となっています。

そのため、これまでも、地域と学校が連携した実践的津波避難訓練を実施してきた伝統があり、平成24年度には、防災まちづくり大賞「消防科学総合センター理事長賞」を受賞しています。

## 2 より実践的な防災学習をめざした取組

平成27年度までの津波避難訓練では、小学校1年生から5年生は、避難場所である浄國寺へ学校から集団で逃げるとと

もに、6年生は地域の方々（各自治会・消防団関係者）と協働し、避難場所で受付を行ったり、通行制限場所を設定し、バリケード封鎖をしたりするなど、防災訓練のスタッフとして活動してきました。

平成28年度は、新たな取組として、小学校1年生から5年生は、保護者とともに家庭から各避難場所へ逃げるように変更しました。6年生は、これまで同様、地域の方々とともにスタッフとして活動します。この成果として、「近所に住んでいる児童や保護者の顔が分かり良かった。声をかけやすくなった」などの多くの肯定的な声を聞くことができました。また、保護者の方からは、「親が不在でも、近所の人に我が子の避難を頼みやすくなった」「適切な避難場所を地区の方に教えてもらって良かった」などの喜びの声が聞かれました。

避難訓練終了後、全児童が登校し、引き続き体育館で防災学習を行いました。



スタッフ会議（当日）



避難場所での受付



消防団との訓練

消防団と育友会の方が準備してくれた豚汁とアルファ米を、体育館で協力して準備、食事、後片付けをすることで、児童にとって貴重な疑似避難所体験とすることができました。最後に、火災の発生を想定し、消火器使用訓練も実施しました。

平成 29 年度は、これまでの避難訓練に加え、職員と各自治会長が開催してきた防災会議に、6 年生が出席し、直接地域の方と 6 年生が協議する場を設定しました。6 年生が防災学習フィールドサーチで調べてきた各地区の危険箇所等の学習結果を発表するとともに、地域の方から質問や意見を聞くことで、内容を深化させ、より主体的な取組になりました。そ



各地区自治会長との協議

の会議の中で、バリケード封鎖場所（危険箇所）等も決定できました。また、避難先では、6 年生が受付任務以外に、地域の方へのインタビューを初めて行い、避難してきた方々の生の声や訓練の課題等を学ぶこととなりました。地域の方々との結びつきが強化されるとともに、6 年生自身もより深く学習できたように思います。

地域の方から、児童の活躍や保護者との連携について、肯定的な感想を多数聞くことができ、意欲が更に高まる結果となり大変喜んでいきます。

### 3 今後に向けて

児童を取り巻く人間関係が次第に疎遠になりつつありますが、この取組を通して、地域・児童・保護者・学校がそれぞれ顔の分かる関係となり、相互に良い影響を与え合えたことが分かりました。

更に、地域の方と協力した防災学習を深化させていくことで、お互いの結びつきを強め、児童・保護者及び地域の方々の防災能力を向上させ、それぞれの命を守る活動に寄与していきたいと考えています。



避難してきた人へのインタビュー